

●**土木工学系学科新設される** 本学会では、昭和37年7月31日付をもって、当時の文部大臣 荒木万寿夫氏に対し土木技術者養成のための大学、工業専門学校および工業高校などの教育機関の拡充、改善を強力に推進するよう建議書を提出していたが、このほど発表された文部省案によると、次のように土木工学系の学科が拡充、新設、または増員されることとなった。これにより年間465名の土木技術者があらたに誕生することとなる。このことは、土木界発展のためにも、よろこぶべきことであろう。465名の内訳は次のとおりである。

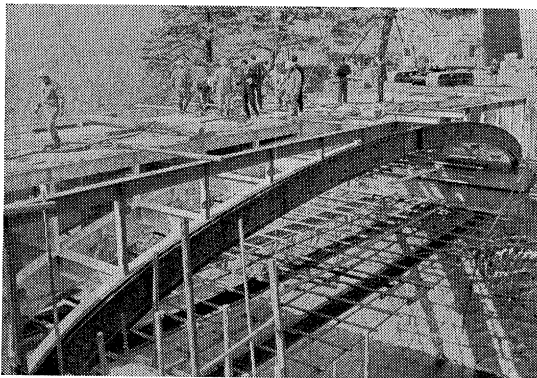
東京工業大学土木工学科 新設	40名
信州大学土木工学科 増員	25名(計60名)
愛媛大学土木工学科 名称変更	40名(旧鉱山学科)
九州大学開発土木科 新設	40名
国土館大学土木工学科 新設	40名
明星大学土木工学科 新設	80名(開校)
中部工業大学土木工学科 新設	40名
福岡大学土木工学科 新設	80名
九州産業大学土木工学科 新設	40名
松江高等専門学校土木科 新設	40名

計 465名

●**「黒四ダム」7月から一般に開放** 北アルプスの秘境に7年がかりで完成された関西電力KKの黒部川第4発電所黒四ダムは、今日まで一般の人々に公開され

生まれかわる二重橋

国民に長く親しまれてきた二重橋が、このたび新しくかけかえられることとなり、その工事がすすめられている。新しい二重橋は、2ヒンジアーチの耐候性高張力鋼製で、長さ24,440m、幅員10m(車道8m、歩道1m×2)、重量66tで、これに要する工費は1億20,000万円である。なお、工事には下部工を株式会社間組、上部工を株式会社横河橋梁製作所があたっている。



ていなかったが、このほど厚生省などが中心となりその観光計画を発表、一般の人々への開放を7月からとした。この計画によれば大町からダム地点、地下発電所への資材輸送の動脈となっていた関電トンネル(長さ約5.5km)を利用して観光客をダムサイトまで運ぶ方法をとる、ここに建設される大展望台、ホテルなどとともに観光の中心とする。また扇沢にあった建設飯場跡(160,000m²)に約50,000m²の広さを持つ自然動植物園が建設され、北アルプスを中心に生活する動植物を自然のままの姿で観察できるように計画され、これには長野県、大町市があたるよう考慮されている。この他、黒四湖畔に厚生省が中心となって建設するピクニックグラウンド(約32,000m²)には600人収容の国民宿舎が予定され、これとあわせ7,000m²の敷地には、登山者の基地となるキャンプ場、ロッジがつけられる。現在のところ関電トンネルを利用してダムサイトへでるルートしかないが、将来は御前沢から室堂へぬける自動車ルートを計画、換気装置が悪いため当分はトロリーバスしか走れない関電トンネルを改装して一般自動車にも解放する将来計画をもっている。外国にあってはアメリカのTVAにも例があるようにこの種構造物を観光資源として計画の時より利用することを考えるケースは多くを数えるが、日本では大きな意味でこのケースが最初であろう。土木技術者の労苦の結晶が多くの人々から愛されるであろうことはよろこばしいことである。

●**五輪道路の用地買収ほぼ終了** 東京都建設局が中心となってすすめていたオリンピック道路の用地買収は、昭和35年から4年ぶりにこのほど終了の段階に達した。22路線のうち3月2日までに19路線が100%の契約を終ったわけであるが、この中には主要競技施設や代々木選手村を結ぶ主要道路である放射4号線(千代田区永田町一世田谷区新町間8.1km)と環状7号線(大田区南千束一板橋区本町間15.3km)が含まれている。当用地買収にあたっては、最初強制収容を1,500件とみていたが、①補償金の増額、②「借家権」に正当な補償をする、③住民の生活再建対策にも力を入れる、④「金より代替地や住宅を」という声に対しては、土地や公営住宅をあっせんしたことなどにより140件におさえることができた。現在工事の進ちょく率は約70%であるが6月中に90%とし、10月のオリンピックまでには十分完成させる予定であるといわれる。